

みんなの広場

安倍政権下での改憲許せない＝年金生活者・勝田秋広・7

1

毎日新聞 2017年5月31日

(大阪府吹田市)

27日の本紙に掲載された「柳田邦男の深呼吸」は、今の国民の怒りについて詳しく解説されていて、安倍政権の内実がよく理解できる内容だ。

多くの国民の声に反する法案の強行採決、沖縄の在日米軍基地問題で見せるごり押し。そして、国民が真相解明を求める疑惑は政官一体となって隠そうとし、国会審議でまともに答えようとしない首相。自民、公明、維新で議席の3分の2を占めているからといって、こんな姿勢が許されるのだろうか。

現政権は多くの国民に喜びを与える政策を実行しているだろうか。「アベノミクスは道半ば」と言い訳し、庶民には何の恩恵も感じられない。国民を小ばかにしたような閣僚の問題発言。メディアに対する圧力をもくろみ、あげくの果ては平和憲法の破壊をたくらむ。改憲の是非を論じるより前に、現状の不誠実な安倍政権が憲法を変えようとする事は許すことができない。国民に寄り添う内閣の下での改憲を望みたい。

来年8月から実施

高額所得者の介護サービスの自己負担が3割に

介護保険関連法改正

Written by ZUU online 編集部 2017/05/30

高額所得の高齢者が介護保険サービスを受ける際の自己負担が、来年2018年8月から3割に引き上げられる。改正介護保険関連法が26日参院本会議で可決、成立した。

65歳以上に導入された介護サービスの自己負担額は原則1割だが、2015年から一定の所得(単身で年金収入のみの場合年収280万円以上)のある人は2割になった。3割負担になる所得水準は、今後政令で決める。厚生労働省は単身の高齢者で現役収入並みの340万円(年金収入のみでは344万円)以上、夫婦世帯で463万円以上を検討している。

介護給付総額は、介護保険制度が始まった2000年度から3倍に近い10兆円に膨らんでいる。団塊の世代が75歳以上になる25年度には約20兆円に倍増するとの試算もある。厚労省は新制度導入で、年100億円ほどの介護費の抑制効果があると見ている。

3割負担の高齢者は全体の3%、約12万人

厚労省によると、3割負担に該当する高齢者は、全利用者の3%相当、約12万人である。

改正法では、給与の高い大企業の社員らの保険料も増やし、支払い能力に応じた負担を求める。また40-64歳の保険料（労使折半）は、収入に応じて増減する「総報酬割」を今年8月から段階的に導入、20年度に全面実施される。大企業中心に約1300万人は負担増となり、中小企業中心に約1700万人は負担減となる見通し。今年8月からまず保険料の2分の1に反映して、段階的に割合を増やし、2020年度に全面実施される。

改正法ではこのほか、高齢者らが長期入院する介護療養病床は、廃止時期を当初予定の17年度末から23年度末に延長する。医療の必要性などに応じて3つのタイプに分けられる新たな施設「介護医療院」に移ってもらう。

このほか住民の要介護度をどれだけ改善・維持できたかなどの成果に応じて、国が自治体を財政支援する仕組みも導入して、18年度から実施する。また悪質な有料老人ホームの指導監督を強化し、現在より厳しい「事業停止命令」措置を18年4月からスタートする。

介護保険料滞納者には厳しいペナルティー

介護保険料滞納者には厳しいペナルティー

改正法には、厚生労働委員会の付帯決議付きで、自己負担割合が2割に引き上げられた前後の介護サービスの利用状況の変化や家計負担の推移などについて実態調査を行ったうえで、3割への引き上げに必要な措置を講じるよう求めている。

20年度の全面実施後、負担増となる高齢者の保険料は、現在より月平均700円余り増える見通しである。これによって国費は、年間約1600億円抑えられると厚労省は試算している。介護保険は滞納すると、滞納年数に応じてペナルティーが付き、滞納1年でも介護サービス利用料は全額負担となるので要注意である。それ以上の年月の滞納は、もっと厳しいペナルティーを覚悟しなければならなくなる。（長瀬雄壱 フリージャーナリスト、元大手通信社記者）

平均寿命より長生きすると「困窮世帯」に？ 2035年には高齢者の3割が貧困、という政策レポート

BLOGOS2017年05月23日

今後ますます貧しい高齢者が増えそうだ。18年後の2035年には、高齢者世帯の約3割にあたる562万世帯で収入が生活保護の水準を下回り、貯金も不足する恐れがあるという。日本総合研究所が、5月17日に発表した「生活困窮高齢者の経済的安定に向けた課題」で論じた。

それによると、562万世帯のうち394万世帯は収入が生活保護の水準未満で、貯金が600万円に満たない「生活困窮高齢者世帯」。生活に足りない分を貯金でやりくりしているうちに残高が不足し、困窮する可能性が高い。

残りの167万世帯は「生活困窮予備軍」だ。収入が生活保護の水準を下回るが、600～900

万円貯金がある世帯などがここに含まれる。病気で入院したり、平均寿命よりも長生きしるといった「不測の事態」に見舞われると、貯金が足りなくなって「困窮世帯」に転落する恐れがある。

1950年代～1960年代生まれは「老後生活に必要な資金を十分に蓄積できていない」

2012年時点で、高齢者の「困窮世帯」と「予備軍」は合わせて412万世帯に上り、高齢者世帯全体（約1700万世帯）の4分の1を占めている。両者ともに、今後ますます増加する見込みだ。

貧しい高齢者が増えるのは、若いときに老後に必要な資金を蓄えられない人が増えているからだという。特に1950年代～1960年代生まれの世代では、老後の準備がままたまなかった人が多いとする。

「（この世代では）バブル経済崩壊、ITバブル崩壊、リーマンショックといった経済危機の度に非正規雇用率が上昇した。これらの世代では、その後の景気低迷の下、雇用機会や賃金上昇が限定的であったため、年金を含め、老後生活に必要な資金を十分に蓄積できていない可能性が高い」

1950年代～60年代より後に生まれた世代はより悪い状況に置かれる恐れがある。

「職務経験の少ない時期や中堅期にバブル経済崩壊、アジア通貨・金融危機、IT不況、リーマンショックによる不況を経験した1950年代および1960年代生まれや、就職氷河期の団塊ジュニア（1970年代前半生まれ）、平成生まれは、若いころから非正規雇用率が前世代と比べ高い」

非正規雇用率が上がると、年金の納付ができず、将来無年金や低年金となる人が増える。

こうした人たちは十分な貯金もできず、貧しい老後を強いられる可能性が高い。

一方、団塊の世代は不況の影響をあまり受けることなく、「資産形成に成功した」という。いわば逃げ切り世代だ。レポートでは次のように説明している。

「高度経済成長末からバブル経済時期を経験しているうえに、1990年代にはその多くが一定の役職者や管理者であったことなどから、世代全体に占める生活困窮世帯の割合は低く、経済危機の影響が小さかったといえる」

就労支援で「生涯現役社会」「一億総活躍社会」へ

これまで貧しい高齢者には、生活保護での支援がなされてきた。しかし財政が悪化し、これ以上保護世帯を増やすことは難しいのが現状だ。そのため、政府は「社会保障による救済（福祉）から、生活困窮者本人の就労による自立支援、地域での共助・互助」へと対策を転換した。

就労意欲を持つ高齢者が増えたことも、こうした転換を後押しする。高齢者に何歳まで働きたいか聞いたところ、「働けるうちはいつまでも」と答えた人が最も多かった。レポートでは、「就労意欲があり、かつ就労可能な高齢者に対しては、積極的に就労支援を行うこと」が必要だと説明。社会保障費を抑制し、人材不足を解消するためにも、「生涯現役社会」「一億総活躍社会」の実現を訴えている。

ベーシックインカムは制度導入の仕方が問題です。フィンランドのように議論されている国というのは、すでに住宅や教育政策が整っていてお金がかからなくても暮らせるような社会になっている。

日本の場合、そういった資源が用意されていないですから。いきなり7、8万円渡しても暮らしにくい状況は変わらないと思います。また、障害者や高齢者といった介護医療などの

福祉サービスのニーズが高い人がそれを現金で購入しないといけないということになれば、弱い立場にある人ほど恩恵は受けにくい。生活インフラの配分状況が十分でない中でお金だけ配っても今と一緒ですよ。

——近著『貧困世代』では、若者が声をあげることの重要性についても触れられています。

18歳から20歳の人々がどれだけ選挙に行くのかということは、最初の選挙ということもあって政治家は注目しているでしょう。マスコミも取り上げていますし、これで投票率が低かったら政策気運は萎えてしまいますよね。

暮らしにくさというのは政治で変えられます。例えば、低賃金の問題は、正規雇用を増やしたり、最低賃金をあげたりと下から底上げをしたり、賃金が低い分を補う施策を打てばいい。そういった政策がないって話なんです。今回の選挙が若者政策が進むか否かの試金石になることは確かです。誰に投票してもいいですが、政治ってなんだろうと関心を持ってもらう必要があると思いますね。

【藤田孝典さん プロフィール】 NPO 法人「ほっとプラス」代表理事。埼玉県を中心に、生活困窮者の支援活動に13年間携わる。高齢者の貧困の実態を記した『下流老人 一億総老後崩壊の衝撃』（朝日新書）は20万部を突破するベストセラーに。近著に『貧困世代 社会の監獄に閉じ込められた若者たち』（講談社現代新書）。